



2024.12.21「ラジオと戦争」講演会

## 感想ノート

(アンケートの感想を転載しました)

主催：ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま

北陸・甲信越

12月21日(土)

講演『ラジオと戦争』の著者が語る放送人の報  
国 13時半～15時半、富山県：サンフォルテ307、308  
(富山駅)。1000円。講師：大森淳郎。ジャーナリズム  
を考える市民連絡会とやま (090-4680-6336)

週刊金曜日 2025.1.3「きんようびのはらっぱで」から

・戦時下の放送の実相を具体的に説明され、放送が戦争遂行に大きな役割を果たしていたことがよく理解できた。テレビは見ない(テレビがない)が、いい番組が時々あることは、新聞報道で知っている。いい番組は応援したい。

・私の叔父は1924年生まれ。予科練に志願し、20歳の若さで1945年5月5日台湾沖の空中戦により戦死しています。もちろん遺骨はありません。戦死の公報は1年以上も後の1946年6月に届いています。今年で100歳、もしかして志願していなければ今でも生きていて、どんな子孫を残していたかと、私の祖父母の悲しみを思います。県の護国神社の石碑に名前が刻まれていて、靖国神社にも合祀されていることもわかりました。本人はそれを望んでいないと思います。兄であった私の父は1917年生まれで、中国、モンゴル、泰緬鉄道補修と、2度の応召で、なんとか生き延びて私たちがいます。今もなくなる戦争、そして日本がまた戦争に向かってひた走りしていることが許せません。生命はお金で買えない尊いもの。イスラエルに支援するアメリカ独裁者があちこちで生まれ、日本国憲法を壊そうとする勢力が徐々に広がっていることが許せません。誰が兵士になるの？

・大変いい講演会でした。放送のプロパガンダがこんなに国民を動かしていたのかと。今インターネットの時代でもSNSなんかにかかれた虚偽の情報なども信じてしまう。人間はなんと弱い者かと思う。残念です。



・NHKは現在も変わっていないと思うし、御用報道が多い。政府も戦争中と全く変わっていない。NHKニュースでも事実を伝えない。深く掘り下げない。どこの局も報道番組は同じ内容なのは困る。たぶん独自取材をせずに打ち合わせをしているのだろう。報道の自由より、報道しない自由が行使されている。個々人の不断の知るどりが基本だと思う。録音を生で聞けたのは良かった。

・NHKの報道には腹の立つことも数多いが、ドキュメンタリー、(ドラマも時には)いいものが多い。つくる人たちにも素晴らしい人が多いと思う。が、政治部人脈が経営などを握っている(?)とか政治部記者が自民党側の手先みたいなことをやっていたりとか、おかしいことは多い。今後とも視聴者として、チェックしていくことが肝要と思う。

・戦前からの放送のあり方の実態を知り、またその移り変わりへのお話など大変興味深く、考えさせられました。質疑応答もとても充実していて、学習になりました。公平～偏り、客観性～主観性の問題と考え方。よい放送への応援の言葉が必要なことなど、大変良い会でした。ありがとうございました。

井埜久満「編集課の一週間」一九四〇年八月

最後に新体制の樹立と共に放送ニュースはどう進まなければならないか。

これは今後というよりはいま直ちに解決してしまわねばならない問題である。全くの私見であるが、此の際、客観的編集方針は須く一擲して、国家意思を盛った主観的編集方針の確立を必要とすると考え。

田中「七時のニュース」一九四一年九月

それから国策放送の色彩を濃厚鮮明にする為には、

ラジオが持つ国家的使命の重大性に鑑みニュースの客観性という従来の範疇から更に前進し、国家の意図や国家の正しい主張といったものを積極的に織り交ぜ、国策を強烈に反映せしめて行かねばならない。

大森さんのパワーポイント講演資料から転載

・日頃思うジャーナリズムがしっかり情報を伝えて下さることに受け取る立場として生きる社会を安心、安全な世界を作っていけると思うので、これからも関心をもって活動したいです。

・敗戦 80 年を目前にタイミングを得た好企画。当時の音声は生々しくリアルな戦争であり、まさにラジオならではの迫力を感じた。「公共企業体」「自治的精神」という二つの言葉は NHK の生命であることをあらためて感じた。



・放送の公共性とは何だろう？事実・真実を視聴者に伝えることを思い、再認識しました。NHK 受信料を年間 21765 円（衛星契約）。これを支払っても NHK 番組は素晴らしいです。ただです。番組の中でお引越しをされたらお知らせ下さい。この時に？がつく私です。NHK は皆さまの受信料で運営されています。国民が納得できる客観性をもつ番組を作って放送していただきたいと思います。

・分かりやすい話。誠実な語り口、質問にも丁寧なお答え。『花子とアン』の再放送で政府が介入する場面、職員が反旗を少し持った場面を思い出した。今は戦前に似てる部分があると思った。

・放送の「公平」さについて、私も考えさせられました。あのトラツバだって男性優位の思想を持つ人にとっては「公平ではなかった」という声をききました。私は「公平」でなく「公正」であってほしいと願っています。人権を損なうものは、なんであれ公正でないはずですよ!!トラツバがあれだけの共感をえたのは、人権を日々損なわれている人々の苦悩を世に知らせ、トラちゃんたちがそれと闘ってくれたからだと思います。「ネズミのシッポ踏んでいるゾウが『自分は公正だ』と言ってもネズミはそう思わないだろう」というような（詳細が違っていたらすみません）フレーズを聞いたこと



があります。公平・公正ってそういうことなのではないでしょうか。客観性についても、「〇〇は～でした」程度の小学生の作文のような報道は意味がないです。（弱い立場の人々を救う方向の視線は必要）かつて朝日町で竹田恒泰の講演が中止されたことがありますが、それが「公平じゃない」（某新聞社の新聞記者がそう言っていた）と言うのは「公正」ではないと思っています。マイナーカードを小・中学校で役場職員が出向いて、子供に作らせたという報道も客観的かもしれませんが、公正ではないと思っています。問題のあるマイナーカードを半ば強制的に子供に作らせることについて、新聞社の考えも記すべきだと思っています。

・声を上げたいと思ってきました。背中を押してもらおうと思います。12 月 10 日大阪地検の検事正が性加害について「無罪主張」をしました。身内が大阪の法曹関係者。12 月 11 日「女性検事を支援する会」ができました。《怒りのメール》を書いたので、実名で支援する会のアドバイスに送りました。返信が来たので、怒りのメールと返信をコピーしてきました。最後に声を上げてほしいと言われたが、声を上げるということは、SNS の社会においてどんな方法、どこでやるのでしょうか。



今年 2024 年は 3 月の七沢潔さんの講演会、今回の大森淳郎さんの講演会と、元 NHK ディレクターの講演会を開くことができました。さて来年は？今後ともよろしくお願いします。（お）